

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月19日

協議会名: 日高町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日高町	【日高地域】 千栄線 【門別地域】 広富線、豊郷線	<ul style="list-style-type: none"> ・運行業務受託業者に対する定期的なヒアリングにより利用者のニーズを把握し、効率的な運行方法やダイヤ改正について継続的に検討を行った。 ・病院等の主要施設での予約受付、運転手への口頭での予約受付の実施及び高齢者向けに民生委員等による予約サポート体制を継続している。 ・デマンドバス等予約アプリの導入に向けた取組及びバスの利用促進に向けた取組として、令和5年10月5日(木)、6日(金)に高齢者を対象とした、スマートフォン教室を実施した。 ・令和5年度内での地域公共交通計画の策定に向け、町内の公共交通の現況を整理し、町民へのアンケート調査を実施した。 ・町営バスの利用方法、また、地域間幹線系統と地域内フィーダー系統の乗り継ぎがわかる時刻表を作成し、町ホームページへ掲載した。 ・感染症対策として利用者に対する消毒液等をバス車内に設置し、安心安全なバス運行を実施した。 	A 計画どおり事業は適切に実施された	B <ul style="list-style-type: none"> ・千栄線は利用者数が61.0人/月であり、目標の61.8人/月と比べ98.7%の達成率で目標数値を下回る結果であった。地域住民の減少が大きな要因であるが、利用者の増加に繋がる取組を目指す。 ・広富線は利用者数が139.6人/月であり、目標の152.5人/月と比べ約91.5%の達成率で目標数値を下回る結果であった。地域住民の減少及び冬期間の外出の減少が大きな要因となっており、年間通して利用してもらえるサービスの提供を検討し、利用者の増加を目指す。 ・豊郷線は利用者数が69.1人/月であり、目標の71.1人/月と比べ約98.2%の達成率で目標数値を下回る結果であった。卒業等による利用学生(高校生)の減少が大きな要因であるが、新規利用者を獲得し、利用者増へ繋がる取組を実施していく。 ・現状は高齢者の移動手段、学生(高校生)の通学手段として定着しているが、人口減少等により利用者数は減少しているため、安定した利用者を確保し、利用者の増加に繋がるよう利用促進に努め、令和5年度に策定する地域公共交通計画により新たなバス運行路線を構築し、継続した運行を実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスや町営バス及び送迎交通等が門別地区で26路線、日高地区で9路線において重複しながら運行している状況に対し、利用ニーズが多い区域運行によるデマンド交通等を主とした輸送手段の一元化を目指すことにより、高齢者等交通弱者の快適な生活環境を確保する。 ・富川市街地に交通拠点の中心となるバスターミナルを兼ねる複合施設が整備されることから、さらなる公共交通の利便性を向上させ、地域住民の満足度を増加させる。 ・令和5年度策定の日高町地域公共交通計画による最適な広域公共交通路と地域のきめ細かな輸送サービスとのネットワークにより、持続可能な公共交通体系を構築する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月19日

協議会名：	日高町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none">・日高町は、北海道日高管内の西部に位置し、町域は、間に平取町を挟んだ北側に位置する日高地域と南側に位置する門別地域の「飛び地」となっており、両地域の距離は約65kmである。総面積は992.14km²、総人口は令和2年時点で11,279人である。・日高町の高齢化率は、約36.6%と全国(29.0%)、北海道(32.5%)の平均を大きく上回っている(R4.1時点)。自家用車での移動が難しい高齢者については、移動の足を確保することが必要である。・町内の路線バスは乗車率が低く、日高町が民間バス事業者の赤字分を補填し、町民の足を確保している状況であった。・このような状況のなか、効率的で利便性の高い公共交通の確立を目指し、「日高町地域公共交通総合連携計画」を平成21年度に策定した。また、計画に基づき、平成22年度には、予約運行方式による町営バス(フィーダー系統)の実証運行を実施し、翌平成23年度から地域間交通ネットワーク又は地域間幹線系統に接続するフィーダー系統の本格運行を開始したところである。・上記の町営バスにより、高齢者等の移動の足を確保・維持するとともに、運行経費の削減を図り、持続可能な交通体系を確立することが必要である。